

平成29年度  
学校評価

- 1 保護者アンケート
- 2 学校評価（教職員対象）
- 3 学校関係者評価

秋田県立横手高等学校定時制課程

# 平成29年度 横手高等学校定時制課程保護者アンケート集計結果

平成29年12月21日 回収

生徒在籍数 103名 / アンケート回収数 71名 / 回収率 68.9%

## I 学校の教育活動

問1	学校の教育活動について、分かりやすく伝えていてと思いますか。	(人)	(%)
	1 そう思う	13	18%
	2 だいたいそう思う	45	63%
	3 あまり思わない	7	10%
	4 全く思わない	2	3%
	5 わからない	4	6%
	無回答	0	0%
問2	子どもの学校生活の様子を伝えていてと思いますか。	(人)	(%)
	1 そう思う	11	15%
	2 だいたいそう思う	46	65%
	3 あまり思わない	7	10%
	4 全く思わない	2	3%
	5 わからない	5	7%
	無回答	0	0%
問3	学校は保護者の要望を取り入れていると思いますか。	(人)	(%)
	1 そう思う	10	14%
	2 だいたいそう思う	44	62%
	3 あまり思わない	4	6%
	4 全く思わない	1	1%
	5 わからない	12	17%
	無回答	0	0%
問4	運動会など体育系行事についてどう思いますか。	(人)	(%)
	1 このままで良い	48	68%
	2 見直して欲しい	4	6%
	3 わからない	18	25%
	無回答	1	1%
問5	星河祭など文化系行事についてどう思いますか。	(人)	(%)
	1 このままで良い	63	88%
	2 見直して欲しい	4	6%
	3 わからない	4	6%
	無回答	0	0%
問6	生徒会活動やホームルーム活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
	1 このままで良い	52	73%
	2 見直して欲しい	3	4%
	3 わからない	16	23%
	無回答	0	0%
問7	部活動・同好会活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
	1 このままで良い	51	72%
	2 見直して欲しい	6	8%
	3 わからない	14	20%
	無回答	0	0%

問8 ボランティア活動についてどう思いますか。	(人)	(%)
1 今のままで良い	54	77%
2 見直して欲しい	3	4%
3 わからない	13	18%
無回答	1	1%

問9 子どもは授業に対してどんな感想や意見を話していますか。	(人)	(%)
1 どの教科もよくわかる	8	11%
2 わかる教科の方が多い	30	43%
3 わかる教科は少ない	15	21%
4 さっぱり理解できず苦痛	1	1%
5 感想を聞いた事がない	16	23%
6 その他	0	0%
無回答	1	1%

問10 学校は子どものことを理解していると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	20	28%
2 だいたいそう思う	39	56%
3 あまり思わない	8	11%
4 全く思わない	1	1%
5 わからない	2	3%
無回答	1	1%

問11 学校はいじめや不登校について効果的に指導していると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	13	18%
2 だいたいそう思う	34	49%
3 あまり思わない	9	13%
4 全く思わない	3	4%
5 わからない	11	15%
無回答	1	1%

問12 整容やマナーについて学校の指導は厳しいと思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	8	11%
2 だいたいそう思う	18	25%
3 あまり思わない	33	48%
4 全く思わない	5	7%
5 わからない	6	8%
無回答	1	1%

問13 学校からの進路情報の提供は役立っていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	13	18%
2 だいたいそう思う	37	52%
3 あまり思わない	5	7%
4 全く思わない	2	3%
5 わからない	12	17%
無回答	2	3%

問14 学校は子どもの進路達成に効果的な指導を行っていると思いますか。	(人)	(%)
1 そう思う	16	23%
2 だいたいそう思う	39	54%
3 あまり思わない	4	6%
4 全く思わない	2	3%
5 わからない	9	13%
無回答	1	1%

問15 本校のホームページによる情報の提供をご覧になっていますか。

	(人)	(%)
1 よく見ている	2	3%
2 時々見ている	34	48%
3 見たことがない	32	45%
無回答	3	4%

## II 家庭教育について

問1 PTA活動に参加していますか。

	(人)	(%)
1 毎回参加している	14	20%
2 時々参加している	14	20%
3 ほとんど参加したことがない	42	59%
無回答	1	1%

問2 子どもと学校について話をしますか。

	(人)	(%)
1 毎日する	32	45%
2 時々する	32	45%
3 ほとんどしない	6	9%
無回答	1	1%

問3 家庭での子どものしつけについてどう思いますか。

	(人)	(%)
1 厳しい	3	4%
2 どちらかと言えば厳しい	17	24%
3 どちらかと言えば甘い	40	56%
4 かなり甘い	4	6%
5 わからない	5	7%
無回答	2	3%

問4 家庭の学校への協力は十分であると思いますか。

	(人)	(%)
1 そう思う	8	11%
2 だいたいそう思う	25	35%
3 あまり思わない	19	27%
4 全く思わない	2	3%
5 わからない	16	23%
無回答	1	1%

### Ⅲ 学校でもっと力を入れて欲しいことなど(自由記述)

学校でのボランティア活動がよく分からず協力できない。例えばペットボトルのキャップやプルタブ集めているとか。

(学校から)

・保護者のボランティア活動は特にありませんが、星河祭でのバザー出展物のお願いがありました。

お陰様で収益が23,090円になり、全額横手市社会福祉協議会様へ寄付しました。

ペットボトルのキャップやプルタブの件については、生徒会役員と協議しながら前向きに考えていきたいです。

生徒のボランティア活動は、県南NPOセンターから依頼される事が多く、その都度、希望生徒に連絡してあります。

(個別に該当生徒に依頼している場合が多いです)

部活動など。

(学校から)

・部活動に関しては、生徒本人の希望ですので強制はできませんが、入部して心身を鍛え、体力の保持増進に努めていけるよう呼びかけております。その成果として、現1年生は多くの生徒が入部して活動しております。中には全国大会にも出場しております。

学校の日常生活、授業、進路での情報が家庭でも子供の声では聞いているが、学校からはPTAで情報を知るだけではさびしいと思う。

(学校から)

・学校の各種活動については、青雲館新聞、進路だより、生徒指導便り、学年通信などを発行して紹介しております。特に、学校行事の内容や生徒の取り組みについては、本校のホームページの中でも紹介しているため、更新情報を保護者にお知らせする方法を検討していきます。学年通信についても発行機会を増加していきます。

・不登校の時、家庭まで来て頂いて、子供に声かけしてもらい、大変ありがたかったです。今後ともよろしく願います。

・3年間楽しく学校生活ができたことをうれしく思います。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。先生方大変お世話になりました。※残りの学校生活を大切に過ごして欲しいです。

・青雲館に入学して、本当に良かったです。

・子供に対してあきらめず、将来につながる対応をして頂き大変感謝しています。ありがとうございます。

(学校から)

・ありがとうございます。生徒には、本校で身に着けたことをさらに伸ばして、羽ばたいてほしいと思っています。これからも、職員一同精一杯取り組んでいきますので、ご理解ご協力をお願いします。

回答欄 (A: そう思う B: ある程度そう思う C: あまりそう思わない D: 思わない E: わからない)

評価項目	番号	質問内容	年度	回答(%)					
				A	B	C	D	E	
特別活動	生徒会活動	25 星河祭などの生徒の活動は充実したものになっていると思いますか。	H29	56.2	43.8	0.0	0.0	0.0	
			H28	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0	
	部活動	26 部活動を通じた人間育成が図られていると思いますか。	H29	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	
			H28	13.3	66.7	13.3	0.0	6.7	
		27 部活動の指導の成果は上がっていると思いますか。	H29	50.0	43.7	6.3	0.0	0.0	
			H28	13.3	66.7	13.3	0.0	6.7	
	【意見・提言】	<p>・行事が、学校生活の良いアクセントになっていると思う。</p> <p>・この人数で希望入部制にしているため、部員確保が厳しいかもしれない。</p> <p>・生徒の活動は盛んで良いと思うが、担当する職員の仕事量も盛んになってしまう。様々な場面で担当者を増やして欲しい。</p> <p>・個人差があり、全日制とは全く違う認識で考える必要あるのでは。</p> <p>・生徒会行事を生徒自らが企画し、司会や運営などを円滑に実施している。部活動は県南・全県・全国大会で活躍するなど、学校に活気をもたらしている。</p> <p>・星河祭がPTAとの協力で年々充実してきていると思うが、一方で主体的に動ける生徒が減ってきているように感じる。生徒数が減少する中で、モザイクアート、壁新聞、模擬店・屋台などクラスでの取り組みが多いため、精選したりクラスを解体して行うなどの工夫が必要。部活動も将来的には数を減らすか、これまでにないボランティア部やスポーツクラブなど新たなものを立ち上げていくことがあっていいのではないか。</p> <p>・野球部員を増やす方法を考えたい。</p> <p>・継続的な活動をするために、今後も工夫したい。</p> <p>・避難訓練などの行事に多くの地域の人々が参加し、そのため生徒の活動の場が増え、充実した体験になっていると思う。</p>							
	年次経営 学級経営	年次経営 学級経営	28 年次やクラスの指導は生徒、保護者の期待に応えていると思いますか。	H29	12.5	81.2	0.0	0.0	6.3
				H28	26.7	73.3	0.0	0.0	0.0
			29 年次やクラスについての情報は生徒、保護者に適切に伝えられていると思いますか。	H29	25.0	62.4	6.3	0.0	6.3
H28				20.0	66.7	6.7	0.0	6.7	
30 保護者面談は適切に行われていると思いますか。		H29	31.2	56.2	6.3	0.0	6.3		
		H28	33.3	46.7	13.3	0.0	6.7		
31 生徒は学校が楽しいと感じ、生き生きと学校生活を送っていると思いますか。		H29	12.5	81.2	0.0	0.0	6.3		
		H28	13.3	73.3	6.7	0.0	6.7		
【意見・提言】		<p>・年間で、担任と保護者が必ず一度は会うようにすべきだと思う。学年毎に時期をずらして面談期間を設けても良い。</p> <p>・クラスにより満足度に大きな開きがあるのが心配される。</p> <p>・保護者と緊密な連絡をとっていると思う。学校が楽しいと感じている生徒が多いと感じるが、「つまらない」と口にする生徒もおり、何を目標に持たせるかが課題と思う。</p> <p>・保護者面談は必要に応じて、即座に実施しており、情報交換も綿密である。</p> <p>・多様な生徒を抱える青雲館では、学年全体や学年を超え全職員で対応する姿勢が担任の負担を軽減している。生徒の情報交換はこれまで同様に全職員で共有していくことが大切だと思う。</p> <p>・保護者面談の実施が徹底できなかった。</p> <p>・多くの生徒が、中学校や前籍校に比べて、本校に来て楽しく学校生活を送っていると思う。</p> <p>・学年部の職員が頻りに代わることで、様々な間が起きていているように感じる。</p> <p>・難しいことかもしれないが、主任と担任を兼ねないようにしてもらいたい。</p>							
研 修		研 修	32 教職員の研修は、適切に行われていると思いますか。	H29	62.4	31.3	6.3	0.0	0.0
	H28			20.0	66.7	13.3	0.0	0.0	
	33 研修の成果が自らの向上と教育実践に生かされていると思いますか。		H29	43.8	43.8	12.4	0.0	0.0	
			H28	13.3	80.0	6.7	0.0	0.0	
	【意見・提言】	<p>・特別支援研修で学んだことを少しずつ実践して欲しい。日頃、気がついたことを伝えると「他の生徒への指導との兼ね合いもあるから、それは無理。」と言われた。特別支援教育は課題のある生徒だけを抽出して行うものではなく、インクルーシブ教育として全体指導の中でも生徒の特性に応じた指導を行うべきと思う。生徒情報の発達障害生一覧と有効な支援を参考に実践して、上手くいかない場合は相談したり、意見をいただきたい。</p> <p>・教員の人数も少なく、研究授業にできる授業も限られる(選択科目、少人数)ので、研究授業は年1回でも良いと思う。</p> <p>・今年度の研修は、実践に役立つものであった。</p> <p>・職員研修は充実していると思うが、回数が多いと思う。支援を要する生徒に関する研修は、スクールカウンセラーや外部の専門家の講話が適当であると思う。</p> <p>・即実践に役立つ研修が多い。</p> <p>・今年度は学習障害の疑似体験、スクールカウンセラーと連携した特別支援、事例研究など幅広い研修ができ、生徒理解や指導力向上に役立った。</p> <p>・職員研修の回数も精選され、不登校対応など、より実践的な内容が行われるようになってきた。</p> <p>・情報共有は難しいと思う場面があった。</p> <p>・勉強になることが多く、すぐに実践していきたいことが多い。</p> <p>・全体会のワークショップは絶対にやらないといけないのか。</p> <p>・いろいろな生徒がいるので、特別支援が必要な生徒の感じ方、見え方を研修から学ぶことができ、授業で気をつけていくことが明確になった。</p>							

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	総務部
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (3) 避難所開設訓練やボランティア活動など、多くの方々と協力し、社会に貢献する活動を通して、社会の一員としての自覚を高め、社会性、協調性、社会に貢献する心を育成する。
-----------------	--

重点目標	総務関連の行事等において、生徒の社会の一員としての意識を高めるように工夫をし、さらに保護者や地域との連携を深める。	P
------	---	---



現 状	防災訓練やボランティア活動等において生徒は積極的に活動している。保護者や地域と連携した取り組みとして防災訓練やPTAの諸行事を実施している。学校の活動について徐々に浸透してきてはいるが、直接参加する人数は少ない。
-----	--



重点目標 達成のための 方策	(1) 防災訓練やボランティア活動については、生徒会と打ち合わせを行う等、生徒の積極的な参加の機会を作る。 (2) 様々な学校行事の案内を保護者や地域住民にも配布し、アンケートや意見交換の内容をできるだけフィードバックしていく。
----------------------	---

具体的な取組 状況	防災訓練については、これまでの成果を引き継ぎ、地域や関係機関を巻き込んで実施した。生徒が主体的に活動できるように計画・指導した。 保護者や地域住民への学校行事等の案内も早めに送るよう努力した。	D
達成状況	上級生は慣れているということもあり防災訓練では積極的かつスムーズに行動し、秋田大学の水田先生には非常に高く評価していただいた。 保護者や地域住民への情報発信の成果はなかなか上がらないが、学校に対して好意的に理解してもらっているようである。	



自己評価	(評価) A (根拠) 生徒が自主的に動ける機会を作り、それが学校外から高く評価された。 学校から家庭・地域への情報発信をおこない、本校の教育活動を好意的に理解してもらっている。	C
------	---	---

(評価基準) A:具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) A ・「青雲館新聞」の編集には工夫が見られ、学校の様子が素直に伝わっている。特に、「本紹介」は素晴らしい企画である。 ・学校主体で避難訓練を実施しているが、当該地域に自主防災組織がない。組織立ち上げの「声かけ」として学校と一緒に活動できればと感じている。 ・避難訓練は生徒にとって、地域と共に体験活動をするだけで十分と思う。	C
----------------	--	---



評価に基づいた 改善策	特別活動部や編集委員会との連携を継続し、生徒が自主的に活動できる機会を作り、学校新聞等を通して外部に学校の様子を知らせることも続けていきたい。 今後も避難所開設訓練において、地域や関係機関と連携しておこなっていききたい。	A
----------------	---	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	教務部
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追及能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。
-----------------	--

重点目標	生徒の思考を促す授業展開 「学習課題」を生徒自身が解決していくプロセスを大事にした授業改善 ・疑問詞を用いた追究型学習課題を提示する ・課題解決を支援するための学習活動を工夫する ・提示課題等を用いた振り返りの徹底	P
------	---	---



現 状	様々な学習履歴を持つ生徒が集まっており、授業の構成に工夫が必要である。
-----	-------------------------------------



重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを意識したグループ活動や生徒同士の学び合い等の授業展開の実践する。</li> <li>・学習活動を用いた振り返りをしっかり行い、学習の定着や学習意欲の向上を図る。(振り返りに活用できる板書の仕方やノートのとらせ方に改善を加える)</li> <li>・教員の指導力向上のために、研修の機会を設ける。(生徒情報交換会、相互授業参観、校内研究授業、等)</li> <li>・各期末に、生徒による授業評価を行う</li> </ul>
----------------------	---

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力向上のために、実践的な研修の機会を設け、より効果的なグループ活動や授業展開に役立てた。(生徒情報交換会、相互授業参観、校内研究授業等)。</li> <li>・授業アンケートを担当している2クラスを選んで実施する方法から、担当している全科目で実施することに変更した。</li> </ul>	D
--------------	---	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修部主催の研修会で学習障害を疑似体験することで生徒理解を深めるような内容が盛り込まれた。これらの研修から生徒サイドにたった授業展開や配慮がなされ、生徒の思考を促す授業展開にも結びついてきている。</li> <li>・詳細なアンケートを実施したことにより、生徒理解やその後の授業展開に大いに役に立った。</li> </ul>
------	--



自己評価	(評価) B (根拠) 着実に授業改善がなされて生徒の思考を促す授業が進んでいるが、アンケート結果からもまだまだ改善すべき点がある。現状に満足することなくさらに研鑽する必要がある。	C
------	---	---

(評価基準) A:具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) A ・授業参観をすると、少人数授業の長所を生かし、さらに心配りも感じられ、生徒を大切にしている。板書の仕方に工夫が欲しい。 ・授業構成を、生徒レベルに見合うようにする工夫には、大変苦勞されていると思う。	C
----------------	--	---



評価に基づいた 改善策	・板書の仕方やノートのとらせ方に改善を加え、本時の振り返りがしっかりできるようにするために、授業見学の継続と他校の公開授業等に積極的に参加する。	A
----------------	--	---



平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	生徒指導部
------	-------

青雲館の 具体的な手立て	3 集団の決まりを守る開かれた心を育む指導を行う (2) 端正な服装、爽やかな挨拶、交通規則等の遵守を通して、地域や社会に信頼される人材の育成を図る。
-----------------	--

重点目標	場にふさわしい服装、行動を心がけるよう指導する。 携帯電話、授業、交通ルールなど、集団の決まりを守って生活するよう指導・援助する。	P
------	--	---



現 状	校内での挨拶はよく行われている。式典時の服装もしっかりしている。 ネットへの無責任な書き込みは行われていると想像できる。(問題として出てくるケースは少ないが。)
-----	---



重点目標 達成のための 方策	授業、面談、行事、委員会・生徒会・部活動などを通して、教員と生徒の信頼関係の構築。アンケート(年度当初、学校生活)、面談(アルバイト、ボランティア、インターンシップ、学業、生活等をテーマとして)等を通して教員が生徒への理解を深める。 問題が生じた際は、教員単独で対処するのではなく、学年・生徒指導部・管理職との連携を密にし、複数の観点からとらえ、適切な対処を図る。
----------------------	---

具体的な取組 状況	授業や行事、部活動などに関する様々な悩みや問題等について、必要に応じて適宜面談をし、生徒との信頼関係の構築しながら生徒への理解を深めることができた。	D
--------------	--	---

達成状況	生徒と教員の関係は概ね良好であり、個々の生徒に必要と思われる指導をおこなっている。そのため、生徒間の人間関係のトラブルは少しずつ減少している。 生徒指導に関する様々な問題が生じた際は、担任や学年部、生徒指導部・管理職との連携を密にし、複数の観点からとらえ、適切に対処をしている。
------	--



自己評価	(評価) B (根拠) 整容や携帯電話、交通ルールなど、集団の決まりを守って生活するよう指導・援助しているが、私物の管理等については今後も指導や注意が必要である。	C
------	--	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) B ・学校で、いつ何が起こるか分からない。教職員は常に生徒への目配りを忘れてはならない。教職員全体で共有し、指導にあたっていることに敬意を表したい。 ・事故防止対策について、組織的に、PTAも巻き込んだ取り組みも必要ではないか。	C
----------------	---	---



評価に基づいた 改善策	生徒情報の共有を継続し、学校全体で生徒を把握・指導する体制を強化したい。 生徒が安全で有意義な生活を過ごすことができるように、関係分掌及びPTA役員と連携しながら、事故防止に努めていきたい。	A
----------------	--	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	進路指導部
------	-------

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導を行う (1) 思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 3 集団の決まりを守る開かれた心を育む指導を行う (1) インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む。
-----------------	---

重点目標	集団の一員としての自覚を持ち、進路実現のために1年次は将来について具体的な展望を持ち進路目標を明確化する。2年次は進路目標の達成に向けて計画的・継続的に取り組む。3・4年次は進路目標の達成に向けて実力養成に取り組む。	P
現 状	積極的にアルバイトやボランティアに取り組み、社会性を身につけていく生徒がいる一方で、同世代や大人とのコミュニケーションの取り方に苦慮している生徒もいる。また、進路実現を自分のこととして受け止め計画的に取り組める生徒と、具体的な進路目標を見いだせずにいる生徒もいる。	
重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学や公務員を希望する生徒への午前補習や長期休業中の継続的な学習指導を行う。</li> <li>・インターンシップにとどまらず、3・4年次でも希望する職種に職場体験を積極的に行う。</li> <li>・アルバイトやボランティア、資格取得に積極的に取り組める環境づくりを行う。</li> </ul>	

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望先への職場見学や職場体験を積極的に奨励する。</li> <li>・ハローワークや他校の進路指導担当者、職場定着支援員との求人に関する積極的な情報交換を行う。</li> <li>・大学進学希望者への午前補習や長期休業中の継続的な学習指導を実施する。</li> </ul>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者は職場見学や職場体験を全員実施し、希望進路の実現に結びつけている。進学希望者も進学先のオープンキャンパスに必ず参加した。</li> <li>・地域振興局、ハローワークなどの行政機関、他校との連携を図り、就職・進学ともに希望進路を実現した。</li> </ul>	

自己評価	(評価) A (根拠) 進学希望者8名 就職希望者11名の合格・内定が決まっている。就職内定辞退者が二度と出ないように、担任、本人、保護者、企業側との連携・情報交換を綿密にそして丁寧に行うことが大切であると感じた。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A <ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な進路希望の実現に向かって、一人ひとりをよく理解し、全力で指導していることが素晴らしい結果につながっている。</li> <li>・卒業後に離職してしまった生徒へ、聞き取り調査をすることも必要ではないか。</li> </ul>	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	生徒一人ひとりの進路希望を実現するために担任や保護者と連絡を取りながら、対応することができた。離職の可能性を少しでも減らすために、本校生徒が入社した企業を定期的に訪問しながら、卒業生の動向を注視する努力をしていきたい。	A
------------	---	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	特別活動部
------	-------

青雲館の 具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとりを神事、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。 (3) 避難所開設訓練やボランティア活動など、多くの方々と協力し、社会に貢献する活動を通して社会の一員として自覚を高め、社会性、協調性、社会に貢献する心を育成する。
-----------------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の活性化を図り、生徒会が主導して実施できるよう取り組む。</li> <li>・生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加し、充実感や達成感を味わう。</li> </ul>	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事は生徒の意見が反映できるよう、生徒会の話し合いを多く設定している。</li> <li>・部活動の加入率を高められるよう、随時情報発信を行い勧誘する。</li> </ul>	
重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と月2回（1日・15日）の定期的な会合を計画し、情報交換しながら生徒の意見を取り入れ、より生徒が活躍できる計画を立案する。</li> <li>・生徒会執行部および各クラスの委員長や副委員長も含めた拡大した生徒会の編成を計画し、クラスの意見も反映されるよう配慮していく。</li> <li>・各種行事の後にアンケートや反省会を実施し、次回に生かせるよう確認する。</li> <li>・学校祭を早目に計画し、準備、実行まで任せる。 （成功体験を多く経験させる）</li> </ul>	

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と月2回程度の情報交換会を実施し、各種行事の打ち合わせ等綿密に行い、効率的な運営に努めた。</li> <li>・星河祭では、生徒が主役になるよう執行部と各クラスの委員長や副委員長も含め拡大会議を実施し、生徒に連絡等周知計画通り進められた。</li> </ul>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事が生徒会主体に運営されている。最大行事である星河祭は天候にも恵まれ、大いに盛り上がり、生徒一人ひとり役割を果たし成功裏に終了している。</li> </ul>	

自己評価	<small>(評価)</small> A <small>(根拠)</small> 生徒会執行部に責任感が増し、主体性を持って取り組んでいる。各種行事がよりスムーズに進行され充実してきている。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評 価と意見	<small>(評価)</small> A <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を尊重し、教職員全員が生徒とともに活動し、サポートしている姿が諸行事に見られ頼もしかった。</li> <li>・学校祭などの行事に参加して、生徒一人ひとりが生き生きとして活動している姿に、好感が持てる。</li> </ul>	C
----------------	--	---

評価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事での生徒会の活躍を継続していき、その実践での反省を確実に生かせるよう計画していきたい。</li> <li>・ボランティア活動にも積極的に参加を促し、体験的な活動を通じて社会貢献活動の実践を行い、社会に必要とされる人間像を模索していきたい。</li> </ul>	A
----------------	---	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	保健部
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導を行う。 (3) 主体的に問題や課題を見出し、その原因や理由、解決や克服の手段や方法を自由に研究する活動を通して、よりよいものをめざして努力する姿勢（追究姿勢）を強化する。
-----------------	--

重点目標	生徒一人ひとりが、基本的な生活習慣を身につけ、自らの健康状態を把握して、自己管理する能力を養う。	P
------	--	---



現 状	日常生活の様々な場面で自分自身の心身の健康問題に気づき、解決していこうとする意識を持つ生徒が多いが、生活習慣の改善の実践に結びつけることはなかなか難しいと考えられる。
-----	---



重点目標 達成のための 方策	① 各種の健康診断を通して、自分自身の健康状態を把握させる。 ② 生活習慣についての調査等を行い、生徒理解を深める。 ③ 外部講師や保健関係の講話等を実施して、健康意識を喚起する。 ④ 日常の声かけや、心身の健康に関する情報提供を継続的に行い、生徒自らが健康について考える機会を増やす。
----------------------	--

具体的な取組 状況	各種の健康診断の実施後、受診を呼びかけ、生徒が健康状態を把握するようにした。生活習慣調査は実施しなかったが、生徒の話をよく聞いて、生徒の心身の状態についての理解を深めた。講話、声かけも実施した。	D
達 成 状 況	生活習慣調査は実施できなかったが、生徒の話をよく聞き、心身の状態の把握に努めた。講話に対する生徒の感想を見ると、生徒の意識を高めることができたと思う。日常の声かけも、保健室を中心に頻繁に行った。	



自己評価	(評価) B (根拠) 上記の達成状況から、生徒自身が自分の健康状態を把握できる所までは達成できたと考えるが、自己管理できるところまでは至っていないため。	C
------	--	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) B ・生徒にとって保健室は教室とは違った特別の空間と考える。養護教諭を中心に明るいきれい雰囲気を作っていることが、生徒を生き生きとさせていると思われる。 ・生徒の健康状態を観察するとき、健康診断後の再受診結果と生活習慣の調査を、保護者と一緒に見ていくことも大切と思う。	C
------------	---	---



評価に基づいた改善策	・保健室を訪れた後の生徒の様子についても全職員で見守るよう、情報を共有する。 ・健康診断後の受診状況を把握し、保護者への受診の呼びかけを担当と共に行う。 ・生活習慣調査の時期を設定して実施し、過去のデータとの比較も行う。	A
------------	--	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	研 修 部
------	-------

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション能力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、向上を目指す強い心と身体を育む。
-----------------	---

重点目標	校内外における研修の充実を図り、生徒理解の促進と指導力の向上に努める。	
------	-------------------------------------	--



現 状	不登校を経験した生徒、発達障害および診断は受けていなくとも何らかの障害の特性がみられる生徒、さらに転編入生等、多様な生徒が在籍し、個々に様々な課題を抱えている。学力面、作業面における個人差も非常に大きい。生徒への指導にあたっては様々な工夫が求められる	P
-----	---	---



重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒情報を理解・共有することで、生徒指導に生かす</li> <li>② 特別支援的配慮を要する生徒に対し特性に応じた支援を行い、生徒の自己肯定感・有用感を育成する。</li> <li>③ 授業参観・研究授業・協議会を通じて授業改善に生かす。</li> <li>④ 選挙年齢の引き下げに伴い、主権者教育の充実について職員の共通理解を図る。</li> </ul>	
----------------------	--	--

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒情報の冊子を作成し、それを元に2回の生徒情報交換会を実施した。</li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>・LD講習会を通じ、発達障害を疑似体験した。</li> <li>・横手支援学校の教育専門監と連携し、個別の支援計画を作成した。</li> <li>・12月には具体的な生徒についての指導法を確認する職員研修を実施した。</li> </ul> </li> <li>③ 年2回の相互授業参観、年2回の研究授業を行った。</li> <li>④ 横手市選挙管理委員会と連携し選挙啓発出前講座を行った。</li> <li>①～④の取り組みを作成中の研究紀要第12号により共有する。</li> </ul>	D
--------------	--	---

達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒情報の冊子は本年度より後期転編入生分も作成した。</li> <li>② LD講習会では発達障害の生徒の状態を体験することで、生徒の置かれている状態への理解が深まった。</li> <li>③ 研究授業では秋田南高等学校中等部の教育専門監を招き、「主体的・対話的な深い学び」についての指導助言をいただくことで、授業改善の具体的な指導法を学ぶことができた。</li> <li>④ 職員も参加し、生徒とともに選挙および主権者教育について理解を深めた。</li> </ul>	
---------	---	--



自己評価	(評価) A (根拠) 本年度はすべての方策に対して、具体的な取り組みをすることができた。各分掌や、教育専門監との連携により、よりよい実践内容になったと感じる。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) A ・星河祭での学校新聞の記事の中に「選挙に行こう」(昨年の衆議院選)と呼びかけが見られ、主権者教育が行き届いていると思われる。	C
------------	--	---



評価に基づいた改善策	今後も学校新聞を活用するなどして、引き続き主権者教育や消費者教育に力を入れていきたいと思う。	A
------------	--	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域

図書視聴覚部

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導を行う (1) 思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 3 集団の決まりを守る開かれた心を育む指導を行う (1) インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む。
-----------------	---

重点目標	情報発信の場としての「図書館」の活用を図り、受信・発信の双方ができる生徒を育てる。	P
------	---	---

現 状	読書を楽しむ生徒の数は増えてきているが、貸出・閲覧状況はなお一部の生徒にとどまっている。授業でも図書館資料を活用する機会、視聴覚室として活用する機会は少なくないが、資料・視聴覚機器を活用した情報収集にとどまり、必ずしも生徒のコミュニケーション能力の育成にはつながっていない。	P
-----	---	---

重点目標 達成のための 方策	(1) 進路スクラップ作成を通して、読む人にとって分かりやすい文を書くようにさせる。 (2) 「青雲館新聞」に「本」に関する欄を設け、図書委員、出版委員に記事を作成させるだけでなく、国語の授業等でも読書に関する記事を書かせる。 (3) 図書の展示方法や掲示等を工夫し、図書館利用の活発化を図る。掲示物・配布物などによって「本」に関する紹介を行う。	P
----------------------	---	---

具体的な取組 状況	(1) 進路スクラップは授業内外で活用されるようになってきているが、取組に関しては個人差が大きい。 (2) 青雲館新聞の「本」欄は書き手の数も増え、内容も充実してきている。 (3) 展示方法・掲示の工夫に加え、図書館ニュースの発行や県立図書館のセット貸出の利用で、図書館利用の一層の拡充を図った。	D
--------------	--	---

達成状況	(1) NIE 表彰を受ける生徒が現れるなど、生徒の読解力・表現力の向上に一定の成果がみられた。 (2) 本好きな生徒、表現をすることに前向きな生徒が増えてきている。 (3) 従来よりも気軽に図書館に立ち寄り、蔵書を眺めている生徒の数が増えた。演劇等芸術作品の映像を定期的に鑑賞する会をひらき、好評を博している。	D
------	--	---

自己評価	(評価) A (根拠) 授業内の活動や長期休みの課題、「青雲館新聞」発行など各場面を通じて生徒が「発信」していく場を多く設定できた。 進路スクラップがこれまで以上に実践的な力を発揮できるような方策が必要である。	C
------	--	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A ・「青雲館新聞」に「本紹介」の欄が設けられているのは良い企画である。各学年向けの本の紹介は、読書への興味・関心を高めることになると思う。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	・生徒みずからが本を紹介したり、感想を述べ合ったり書評したりする機会をいっそう増やし、さらに読書感想文・感想画への応募や書評大会（ビブリオバトル）への参加等も促したい。進路スクラップについては学級単位のチェック・指導にとどまらず、教科・学年を超えた指導のあり方を検討すべきと思われる。	A
------------	--	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	1 年 次
------	-------

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (2) 仲間と協力して困難に打ち勝ち努力する活動を通して、向上をめざす強い心と身体を育む 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む 3 集団の決まりを守れる開かれた心を育む指導 (1) インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む
-----------------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の人間として成長（自立、自律）を支援する。</li> <li>思いやりのある生徒を育成する。</li> </ul>	P
------	--	---



現 状	中学校時代に不登校であった生徒が少なくない。集団生活になじめず対人関係の持ち方について学ぶことが必要である。	P
-----	--	---



重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別面談を繰り返し、生徒と担任の信頼関係を構築する。</li> <li>部活動やアルバイト、ボランティア活動への参加を推奨する。</li> <li>進路目標が明確な生徒には必要な学習指導を行う。</li> </ul>	P
----------------------	---	---

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同のSHRを適宜実施し、伝えたい内容をしっかり伝達できるよう実施した。</li> <li>問題のある生徒、気になる生徒とは、即面談や家庭訪問を実施し、家庭の協力を得ながら取り組んだ。</li> </ul>	D
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同のSHRは効率的で成果があったと考えており、今後も継続していきたい。</li> <li>家庭の理解や協力を得て進められたお陰で、生徒の成長に繋がる事例が多かった。（人間関係の修復、不登校生との改善等）</li> <li>日々の積み重ねにより、全体的に思いやりの心が育成されてきている。</li> </ul>	



自己評価	(評価) A (根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係の相談が減少し、よりよい人間関係を保っている。</li> <li>不登校で悩んでいた生徒が登校できるようになっている。</li> <li>クラス内で活発な意見交換が行われている。</li> </ul>	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) A 特になし。	C
----------------	-----------------	---



評価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の生徒が登校できるよう配慮しているが、個人差があるので長期に渡って家庭訪問等継続していく必要がある。何事も笑顔や笑いをもっていくことで心の扉は必ず開いていくと思っている。</li> <li>進学希望者の対応の補修など明確に計画的していく必要がある。</li> </ul>	A
----------------	---	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	2年次
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 思考力、発想力、観察力、問題解決能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-----------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を定着させ基礎学力を高める。</li> <li>・将来について具体的な展望をもち進路目標を明確化する。</li> <li>・他の人を思いやり互いに助け合う姿勢をもつ。</li> </ul>	P
------	--	---

現 状	2年次の生徒は授業にはほとんどが前向きに取り組んでいるが、何名かの生徒は課題を期限までに提出できない。また、高校卒業後の進路について明確でない生徒、迷っている生徒も多く存在している。友人関係は昨年度よりも良好になってきている。自主的に行動しようとする生徒、積極的に人とコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えてきている。	P
-----	---	---

重点目標 達成のための 方策	面談により生徒理解を深め、保護者との連絡を密にし、家庭と学校の両方で生徒の成長を見守り、適切な指導を行う。 小さな問題でも、学年部内、管理職とで情報を共有し、適切な対応を心掛ける。 インターンシップ、修学旅行、学校祭、校内体育大会等の行事を通して、自主的な活動、友人との協力関係、他者への理解・共感等において、生徒が成長できるように支援・指導していく。	D
----------------------	--	---

具体的な取組 状況	夏季休業中に実施した全員参加のインターンシップ、修学旅行、学校祭、クラスマッチ等の行事を通して、自主性や協調性、友人との協力関係、他者への理解・共感等において、生徒が成長できるように支援・指導した。	D
達成状況	面談等を通して家庭と適宜情報交換をしている。また、行事や講話の謝辞など、生徒の特徴に合わせて活躍の場面を与えている。	

自己評価	(評価) A (根拠) 少しずつではあるが自主的に行動しようとしたり、積極的に他者とコミュニケーションを取ろうとする生徒が増えてきて、学校生活が有意義だと感じている生徒が多くなっている。 今後も体験的な学習や個々が成長できるような機会を多く設定して、自己有用感を培っていきたい。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価 と意見	(評価) A 特になし。	C
----------------	-----------------	---

評価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な人間関係を築けるように学年全体への指導のみならず、必要に応じて個別での指導を行う。</li> <li>・各種行事において、リーダーシップを発揮できるよう支援する。</li> <li>・進路実現に向けて、自己の特徴を見つめ直させ、目標を定めて早めに行動・努力するよう指導する。</li> </ul>	A
----------------	---	---



平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	3年次
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-----------------	---

重点目標	・他の人を思いやり、社会に貢献しようとする姿勢を育てる。 ・卒業予定者の進路希望を達成させる。 ・次年度卒業予定者の進路について現状を確認し、目標を明確化させる。	P
------	---	---



現 状	・集団生活になじめず、他者との関係性を築くことが難しい生徒がいる。 ・目標をなかなか決めることができず、行動に移すことが難しい生徒がいる。	P
-----	--	---



重点目標 達成のための 方策	・三ヶ月後、半年後、一年後の具体的な見通しを立てさせることで、将来に対する積極的な姿勢を持たせる。 ・個別面談・三者面談を継続して行うことで、生徒の抱える問題を把握する。 ・特に就職希望者に対しては、職場訪問やインターンシップの実施、外部機関との連携を進めることで「働くこと」の意義を理解させる。	D
----------------------	--	---

具体的な取組 状況	・個別面談や三者面談の他にも、副担任や養護教諭など複数の教員と連携して生徒対応に取り組んだ。生徒・保護者対応記録も共有して指導に生かした。 ・生徒の状況に応じて職場訪問やインターンシップを繰り返し行わせた。	D
達成状況	・個々の生徒が抱えている問題に対して、複数で関わることで多様な取り組みが可能になった。 ・職場訪問・インターンシップを経て、進路変更を含め希望を絞り込めた。	



自己評価	(評価) A (根拠) 生徒指導の際に想定外の場面に出くわしても、教員間の連携を取りながら対応することで、目標はほぼ達成できたといえる。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) A 特になし。	C
----------------	-----------------	---



評価に基づいた 改善策	職員室内における教職員同士の情報交換と、時系列で記入した生徒対応の記録などを学年部で共有する。	A
----------------	---	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	4年次
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導を行う。 (1) 一人ひとりを信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。 1 自立して生きる力を育む指導を行う。 (1) 思考力、発想力、観察力、問題解決能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。
-----------------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人を思いやり、お互いに助け合う姿勢をもつ。</li> <li>・卒業予定者の希望進路を実現する。</li> <li>・次年度卒業予定者の進路について具体的な展望をもち進路目標を明確化する。</li> </ul>	
------	---	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係や様々な悩みを抱え、学校行事や集団で活動する場面に積極的に関わることができない生徒がいる。</li> <li>・希望進路実現に向けた午前補習やNPOでのボランティアの継続、資格取得への挑戦、アルバイトの継続など自分の進路に対してしっかりと向き合っている生徒がいる一方で、自分の進路に対して意識がまだ低い生徒がいる。</li> </ul>	P
-----	--	---

重点目標 達成のための 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係や様々な悩みの把握のために粘り強く、個別面談や三者面談、家庭訪問を継続する。</li> <li>・大学進学希望者や公務員希望者に対する午前補習と長期休業中の学習指導を継続する。</li> <li>・インターンシップとは別に就職希望者には職場体験を奨励し、希望する職種の絞り込みと働くことの意義についてしっかりと考えさせる。</li> </ul>	
----------------------	--	--

具体的な取組 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者については、面接・作文練習に加え、職場体験を必ず行った上での出願を徹底し、離職防止に向けた取り組みを在学中から行った。</li> <li>・進学希望者についてはオープンキャンパスへの参加、AO入試・一般受験に向けた補習授業など個々の進路別に細かく対応した。</li> </ul>	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職面接やAO入試の面接練習、作文練習は総学とLHRの時間だけでなく午前中に職場定着支援員の永井先生にも積極的に協力していただき、実施できた。</li> <li>・大学進学に向けた補習授業は平日の午前中、長期休業中も計画的に実施できた。</li> </ul>	

自己評価	(評価) A (根拠) 今年度の卒業を目指す生徒と次年度以降に卒業を目指す生徒で進路学習に対する学習課題は違っても当然であるが、少人数であるがゆえに個別対応が可能で目標もほぼ達成できたと思う。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価 と意見	(評価) A ・生活体験発表会で発表者の女子生徒が、入学後に先生と祖母への感謝の気持ちを込めてスピーチしていた。その会場で生徒の祖母の方が感涙しており、そばにいた私もホロリときた。改めて生徒の自立性を育む指導に感動した。	C
----------------	---	---

評価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転編入で途中から在籍した生徒が多い学年だったが、最終的には希望進路を実現して卒業することができた。また、正社員ではなかったものの4月からの職場を決めて卒業することができた。生徒の可能性を信じて粘り強く指導することの大切さを改めて学ぶことができた。</li> </ul>	A
----------------	--	---

平成29年度 校務分掌等の目標

評価領域	スペース・イオよこて
------	------------

青雲館の具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1)一人ひとりを信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオ・よこてへの理解を深める発信をする。</li> <li>・生徒のニーズに応じた適切な支援と指導の充実を図る。</li> <li>・イオの活動を通して、定時制とイオとの連携を図る。</li> </ul>
------	--



現 状	5月からの、前期の入所生徒はいなかったが、7月12日現在、3名の生徒が入所している。後期入所募集までの間に、さらに随時入所の生徒が入ってくる事が予想される。入所生徒にはマンツーマンで丁寧な指導し、学年相応の学力がつくように指導していきたい。	P
-----	--	---



重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 通信等をホームページにアップしたり、外部関係諸機関に送付したりする。</li> <li>(2) 生徒のニーズや気持ちを大事にした適切な支援をする。</li> <li>(3) 定時制の先生によるゲストティーチャー授業を通して様々な人と関わったり、協力したりしながら、主体的に問題解決をする姿勢を強化する</li> <li>(4) レザークラフトアンケート (→作品をプレゼントする) の実施により、周りから感謝される体験をすることで、自信をつけるとともに、自己肯定感、自己有用感を育む。</li> </ul> <p>上記の4点の方策を通して、生徒の実態とニーズに応じた指導を粘り強く、継続して行い、学力や対人スキル等を向上させることで生徒が自信をつけ、主体的に動く 姿勢を強化したい。</p>
--------------	--

具体的な取組状況	(1)は毎月(2)は普段の活動で十分取り組んでいる。(3)(4)については今年度は入室が困難な生徒が目立ち、実行されていない。(4)については冬季休業明けのⅢ期に必ず実行したい。	D
----------	---	---

達成状況	入室が安定している一人の生徒に頼り、アンケートの聞き取りと製作に取り組む予定。	D
------	---	---



自己評価	(評価) C (根拠) (3) について入室が困難な生徒が目立ち、入室生徒がいない日もあり、ゲストティーチャーの依頼もしづらく年間計画の半分もできなかった。(10月以降、中止状態) (4) についてはなんとか、終えることができた。今までにないくらい生徒の入室状況が悪かった、「イオに来たら楽しい、楽しいからイオに来る」と生徒が感じるように手立てを工夫してきたが、全てうまくいかなかった。方策の(4)については1月24日に定時制職員にアンケートを実施した。製作し、3月には配付予定である。	C
------	--	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) B 特になし。	C
------------	-----------------	---



評価に基づいた改善策	「イオは楽しいから、入室したい」と生徒が感じるように学習指導を工夫するとともに、昼夜逆転で生活リズムが乱れている生徒については在籍中学校、保護者と連携し、基本的な生活習慣を身につけるように指導し、イオへの入室を促していきたい。生徒の実態とニーズに応じた指導を継続して行い、学力や対人スキル等を向上させることで生徒の自己肯定感、自己有用感を育み、生徒が主体的に動く姿勢を強化していく。	A
------------	---	---